

**令和5年度第1回寝屋川市地域福祉計画
推進委員会 会議要旨**

会議の名称	令和5年度第1回寝屋川市地域福祉計画推進委員会
開催日時	令和5年11月6日(月) 午後2時00分から午後3時50分まで
開催場所	議会棟5階 第二委員会室
出席委員	岡田委員長、伊与田副委員長、明石委員、中島委員、 宮本委員、近藤委員、田中委員、大西委員、朽見委員、 森田委員、西尾委員、乾委員
欠席委員	林堂委員
案件	1 委員長・副委員長の互選について 2 重層的支援体制整備事業に関する取組について 3 成年後見制度の利用促進に関する取組について 4 第4次市地域福祉計画における事業一覧について 5 その他
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
傍聴者の数	なし
所管部署 (事務局)	福祉部 福祉総務課

事務局	<p>次第1 委員長・副委員長の互選について</p> <p>委員からの推薦により、前任の岡田委員が委員長に、伊与田委員が副委員長に決定。</p>
委員長 事務局	<p>次第2 重層的支援体制整備事業に関する取組について (次第2について説明(参照資料2・3))</p>
委員	<p>新しい政策で簡単な事業ではないため、職員を配置しただけでは回っていかない。令和6年度の準備期間で事務局と社会福祉協議会事務局は、全体的なことがわかる人材の準備を進めてほしい。また、協働の関係もしっかりやりつつ、市民の要望とマッチできるような体制づくりをどうするか考えてほしい。</p>
委員	<p>障害児の場合、障害福祉課ではなくこども部(子育て支援課、こどもを守る課)に相談に行くため、こども部からの相談内容が重要になるのではないか。包括的相談支援事業は、障害児を含めた形なのか、ちゃんとした機関をそこに据えるのかをお聞きしたい。</p>
事務局	<p>既存の窓口をより深めた形で利用していくことを考えており、新しい窓口の設置については現在のところ考えていない。</p> <p>こども部の窓口はもちろん、庁内の窓口において相談の受け止めを実施できるよう庁内調整をしていく。相談を受け止めた後の繋ぎ方はまだ明確ではないため今後さらに検討していく。</p>
委員	<p>多機関協働事業が中核機関になるかと思うが、多機関協働事業に複雑化、複合化した事例が回ってきたあと、どう解決していくか、まわしていくのかというところが見えない。司法書士</p>

事務局	<p>や成年後見センターリーガルサポート等の団体がどうここに関わっていくのか、あるいはどのように相談が来るのか、どういう繋がりを想定されているのか教えていただきたい。</p> <p>中核機関としての多機関協働事業や成年後見に係る繋がりについて検討できていない状況である。また、中核機関については、市として明確な方針が確立できていない状況であり、各市の状況を確認し検討しているところである。</p>
委員	<p>民生委員活動の中で不登校の児童生徒が増えており、また、ヤングケアラーの中学生等が家庭の中で誰にも相談できてないという状況を見聞きしている。行政としてどのように、ヤングケアラーの子どもたちを地域で支えていくか考えて欲しい。</p>
委員	<p>資料3では、教育が蚊帳の外のように感じた。子どもから大人になる間で障害のある子どもが発見されたり、不登校になったりっていう子どもさんがたくさんいるが、親は学校以外のどこにも相談できないという話をよく聞く。教育がどのようにこの図の中に関わってくるのか聞きたい。</p>
事務局	<p>関係機関として学校関係者と話す機会を設ける方向で検討している。学校での様子は地域で把握できておらず、民生委員児童委員及び主任児童委員と学校との連携は重要であるため取り込んでいきたい。</p>
委員長 事務局	<p>次第3 成年後見制度の利用促進に関する取組について (次第3について説明(参照資料4))</p>
委員	<p>大阪府下市町村では、本人に財産がない場合誰が申し立てを</p>

	<p>しても後見人に対する報酬を助成するという方向になっているかと思うので、寝屋川市においても市長申立に限定した後見人への報酬助成からの拡充を改めてお願いしたい。</p> <p>成年後見制度の利用が増加傾向にあるため、専門職の後見人だけではなく、簡単な事案については市民後見人の活用や社会福祉協議会の金銭管理事業の拡大等合わせて対応していかないと、今後専門職は回っていかなくなるので検討いただきたい。</p> <p>誰も関わってくれなくてほったらかしになってるというようなことにならないよう、予防も含めた早い段階からの施策も長い目で見ると取り組まないといけないと思う。</p> <p>市長申立てに限らない成年後見等に関する報酬助成については他市状況を踏まえ費用等含め、引き続き検討していく。</p>
<p>事務局</p> <p>委員長 事務局</p>	<p>次第4 第4次市地域福祉計画における事業一覧について (次第4について説明(参照資料5))</p>
<p>委員</p>	<p>(No.40) 余りにも数字の確立が少ない。地域協働協議会でもこれでは何のプラスにもならない、何のために名簿を出しているのかと問題が出ているが、その点はどうなっているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>同意率が低い理由として、個人情報地域の方等に提供するというところで当事者から同意が取れないところがあると聞いている。</p> <p>防災課で地域に提供する名簿への記載について同意してもらうよう働きかけをすると聞いている。</p>
<p>委員</p>	<p>更新やサービスの申請等窓口に来る機会があるので、その時に名簿への同意について説明しないと、送付されただけで同意</p>

	<p>ってというのは難しい。自治会等に渡ることに対する不安な気持ちもあると思う。同意の取り方等窓口での丁寧な説明が必要ではないかと思う。同意率が上がっていないというのは同意を得る努力をしてないってということだと思うので、何らかの方法を考えてほしい。</p>
<p>事務局 ※後日回答</p>	<p>避難行動要支援者名簿については、新規の名簿登載者には、毎月、同意書を郵送し、対象者から防災課に問い合わせがあった場合には丁寧な説明を心がけている。現在、介護保険の認定の際や更新の際に避難行動要支援者名簿の登載についての説明を行えるよう、関係課とともに調整を進めている。</p>
<p>委員</p>	<p>地域で活動している団体の中には、個人情報があるからと名簿の所持に対してあまり前向きではない団体もある。この名簿は人の命を助けるための情報であり、必要な時には活用しなければならないと思う。そののところ、防災課には、助けられる命を助けるためよく説明していただきたい。</p>
<p>事務局 ※後日回答</p>	<p>避難行動要支援者名簿の趣旨を十分説明するとともに、避難支援に関わる地域の方が話し合う場を設けるなど、避難支援等関係者の増加に努める。</p>
<p>委員</p>	<p>なぜ個人情報を共有しないといけないのか、人の命を皆で守っていくため、その部分は当事者にも理解していただいた上で、その環境作り等を行政がサポートしていかないとけない。利用方法、利用目的、利用者、利用の制限等市民に理解していただけるルールがあれば安心できると思う。そのあたりの仕組みづくりや共有できるものが寝屋川市としてあればもう少し同意率が上がるのではないか。</p>

委員	<p>(No.51) 成年後見は非常に増えてきているが、行き詰ったところでの利用がほとんど。そういった人たちを漏れないようにすることも重要ではあるが、そうならないような施策も必要ではないだろうか。任意後見制度や終活等自分の将来に向けて手を打っていくということを啓発するような取組や孤独で誰も手を差し伸べてもらえない人の増加を予防するような施策を寝屋川市として取り組んでほしい。</p>
事務局	<p>今現在の周知については、市ホームページ、地域包括支援センターでいろんな周知の取組をしているところではあるが、事前にそういった制度があるということをより多くの方に知っていただく取組についても、ご意見を踏まえて検討していきたい。</p>
委員	<p>(No.27) 「緊急時居室確保事業」、「体験宿泊プログラム事業」の実績を教えてください。</p>
事務局	<p>ライフステージの中で、将来を見据え1人で生活してみるという目的において、非常に重要な事業だと思っており、今後も機会につけ、利用促進に努める。</p>
※後日回答	<p><R4 年度実績> 緊急時居室確保事業：0 件 体験宿泊プログラム事業：15 件（35 日間利用）</p>
委員	<p>(No.46) 子ども同士のいじめの問題の防止プログラムがあるが、子ども同士のいじめだけではなく教師から受ける面があることも考慮し、教師への研修を実施してほしい。</p>
事務局	<p>子どもへの暴力防止プログラムでは、子どもからだけではなく、あらゆる暴力から身を守るための教育プログラムを実施し</p>
※後日回答	

委員	<p>ている。教師からのいじめ相談等を受けた場合は聴き取りを行い、適宜、教育委員会に情報共有を行い、対応状況等を注視している。</p> <p>また、教職員によるいじめや不適切な指導等が発生しないよう、コーチング研修をはじめ、各種研修にて教職員の子ども理解や指導力向上に努めている。</p> <p>地域福祉計画全体の中で、市としてこういう事業があり、これらに横串を刺して、どう適切な形で支援を必要とされている方に届けていくのが大事。取組実績は数値化できるものとできないものがある。担当課においては、数字や内容の報告だけでなく、それがどういうエビデンスや背景に基づいているのか原因等々を勘案し、事業改善に取り組んでほしい。</p> <p style="text-align: center;">閉会</p>
----	---